



▲「どのスーパーボールにしようかな」(矢作・矢作北ブロック交流会にて)

# かいほつ

## 61号

學 額田中学校  
三年 麦津田 真樹

岡崎市現職研修委員会  
特別支援教育部会  
平成21年 12月14日発行



笑顔のミニツリー作り

竜南中学校長

高橋 鏡 二

文化祭二日目。八・九組の売り子の元気のいい声が展示場に響く。

「いらつしやい。いらつしやい。」「かわいいツリーですよ。」

「サンタさんもいますよ。」「お土産にどうですか。」

K君やNさん、Rさんの呼び込みに、見学に来たお客さんの足が止まる。

「とってもかわいいね。」「上手にできてるねえ。」

恥ずかしそうにしていたR君の顔も笑顔に変わる。

「ありがとうございます。はい、おつりです。」

レジ係のAさんのはきはきした応対の音が、さらに大きくなる。

「来年もぜひ作ってね。買いに来るから」と、来年の予約までいただいた。

真っ赤に塗られた板に、大きな松ぼっくりと小さな松ぼっくりが一つずつ、

鮮やかな緑色に着色されて配されている。松かさの一枚一枚すべての先には

星や雪の結晶をかたどったモールが貼り付けられ、光を受けて金色や銀色、

赤色や青色に輝いている。モールの他にビーズを付けたものもある。中ほど

には木の丸いすにサンタクロースがにこやかに座っている。その横にはどん

ぐりも飾られ、楽しさを醸し出している。

どれも八・九組の子どもたちが丹精込めて作ったミニツリーである。材料

の松ぼっくりやどんぐりは、台風の翌日、学校近くの公園で子どもたちが拾

い集めてきたものである。土台になる板を電動かんなで削り、赤色のペイン

トを施す。松ぼっくりは緑色に仕上げ、台に接着する部分を電動やすりで平

らに仕上げる。最も手がかかるのはモールやビーズの貼り付けである。松か

さの先端に爪楊枝でポンドを付け、一つ一つ貼り付けていく。これは根気と

集中力の要る作業である。どの作業も全員で行っているが、それぞれが、持

ち味を生かした仕事ぶりである。また、子どもたちのツリー作りの話を聞いて、

どんぐりを届けていただいたり、板を提供して下さったりした方もい

る。

子どもたちの発想や感性には無限の可能性がある。その感性が多くの人た

ちの支援を受け、形となって表れ、私たちに幸せの笑顔をもたらしてくれる。

そして、その笑顔は、子どもたちの成長の大切な糧となって戻っていく。

### 子どもと親の集い

# 3ブロック交流会

おいしかった白玉デザート

童南ブロック

上地小 教諭 河合 昭子

今年の交流会の楽しみは、白玉デザート作り。上地小の子どもたちが、材料や手順などを発表した後、グループに分かれて作り始めました。小学生と中学生が協力して丸めて団子にしたり、ゆで加減をみたりしました。お湯や包丁を扱うところは、保護者にも手伝ってもらい、最後に盛り付けて完成。お弁当の後ろに楽しい白玉デザートを食べながら会話も弾み、みんな満足そうな笑顔。  
午後は、ゲームで遊び、楽しく充実した交流会でした。



▲しっかりこねて団子にしようね



▲バナナは2こずつ入れてね

### フルーツヨケルト作り

甲山ブロック

梅園小 五年 朝倉 国仁

七月二日に、梅園小学校の家庭科室で甲山ブロック交流会をしました。ほとくの係は、受付と司会でした。受付では、あいさつをしてから名札を渡しました。友達と協力してできました。司会は、後ろまで聞こえるように大きな声で言いました。

ぼくが一番楽しかったのは、フルーツヨケルト作りでした。中学生のお兄さんは、包丁を上手に使って果物を切っていました。すごいなあと思いました。ぼくは、スプーンでバナナを切ったり、果物を混ぜたりしました。おいしくできてよかったです。ブロック交流会はすごく楽しかったので、またやりたいです。

### 三教研夏季研修会報告

六ツ美西部小 教諭 金丸 幸司

今年度の三教研夏季研修会は、八月十五日に幸田町で開催されました。私は、第三分科会(教科学習)に参加し、提案をしました。

提案の内容は、日常生活での表現力を高めるための実践です。身の回りにある物の名前、よく使う動詞に絞って言葉を学習し直し、また、それらを使って短い文を作る学習を、楽しい教材・教具、ゲームで子どもの興味・関心を引きながら進めた結果、児童の日常の言語活動に広がりが見られたという内容です。

助言者の先生からは、学校や家庭で必要な言葉から教えたこと、しりとりやカルタ等のゲームを取り入れて覚えたい言葉をすぐ使ったこと、声を出すための小道具(マイク)が効果的であったこと、動詞を実演しながら覚えたこと等、多くの工夫があったというご助言をいただきました。

また、参加された先生方からは、カードを並べて言葉を作る、「あ」のつく言葉ができるだけ多く考える、写真を選びながら作文を進める、といった現場での実践を紹介していただき、参考になりました。

日常生活に必要な言葉の学習は、子ども一人一人の能力に合わせて、適切な支援をしていくことが必要なのでと改めて感じた研修会でした。

### 職場体験学習を終えて

甲山中 教諭 水口 貴康



▲雑誌のふろく作りをするA

二年生二名が職場体験学習を行いました。福祉の村「希望の家」(六月九日〜十一日)と、菜めし田楽「若やぎ」(六月十一日)で、それぞれ体験しました。

「希望の家」では、部品の組み立てと雑誌のふろく作りを行いました。三日間、集中して作業をすることができました。また、三日間、作業を終えて自宅近くまで大好きな名鉄バスに乗って、一人で帰ることができました。

「若やぎ」では、店外のそうじに始まり、おしぼりの準備や実際にお客様に料理を運ぶことを体験しました。昼食に菜めし田楽をごちそうになり喜んで帰って来ました。

貴重な体験をさせていただいたことに感謝の気持ちでいっぱいです。



▲イルカショーの見学

九月三十日、社会見学で名古屋港水族館へ行きました。

はじめにイルカショーを見て、つぎにベルーガのトレーニングを見ました。イルカは、ジャンプしてくるくる回っていました。それを見て、すごいなあと思いました。ベルーガは、泳いだり、えさを食ったりしていました。それを見て、かわいいなあと思いました。さigoの社会見学で、来年から行けなくなるのは、さびしいけど、すごく楽しかったです。

# 岡崎ライオンスクラブ主催 社会見学会

矢作東小 六年 石川 敦基



▲ヒトデにタッチしたよ

井田小 五年 澤田 瑞生

ぼくは、名古屋こう水ぞくかんで、イルカのパフォーマンスを見るのが楽しみですでした。せきにすわって、イルカが来るのを待ちました。イルカがジャンプして出てきたので、「わあ、すごい。」と言いました。

ぼくが、イルカショーで良かったのは、フリスビーをキャッチしたところです。それは、もぐつてからフリスビーをキャッチしたからです。イルカはよく見えるなと思いました。カメラやペンギンも見ました。ライオンズの社会見学に行けてとてもうれしかったです。

## 学級紹介

### 愛宕小学校

教諭 深津 佳子



▲毎朝、縄跳びにチャレンジ

新設された愛宕小たんぼ組は、四月に一年生三名でスタートしました。六月から体験入級していた一名が正式に在籍となり、九月から一年生四名で生活しています。愛宕小は毎朝チャレンジタイムで漢字、読書、読み聞かせ、計算などの練習をしているので、たんぼ組は、毎朝縄跳びチャレンジを続けています。全く跳ぶことができなかった二名の女子も「パターンピョン（足元まで回した縄を両足で跳びこす）」を継続したことで、七月には前回し跳びができるようになりました。現在では、後ろ回し跳びや長なわ跳びの上手な子が三名います。

この秋、たんぼ組では『たんぼオリンピック』を計画し、一年生や他の学年との交流を実施しました。種目には、もちろん長なわチャレンジもあり、張り切って練習をすることができました。楽しみながら練習をし、できることを増やしている四名です。

### 岩津中学校

教諭 三浦 裕昌

四月に生まれたばかりの特別支援学級です。「YES, WE CAN! (やればできる)」を合言葉に、学区の方とのふれあいや学級にチャレンジしています。

二年生の体験学習では、駒立のぶどう園で、学区の産業を知る活動を中心に行い、ブドウの袋かけなどをしました。

また、「学校を花でいっぱいにしてきれいにしよう」と計画し、花の栽培や陶芸の花びん、彫刻を中心にした花台の制作を行っています。学区の講師さんから、プロの技術を学んでいます。

クラスの歌も作り、文化祭で発表します。こうしてみんなが打ち解けて、元気に登校し、学習しています。



▲ぶどうの袋かけを体験する子どもたち

子どもたちと歩んだ十六年

元六ツ美南部小教諭 野澤 裕子

特別支援学級の担任として、緑丘小で八年、六南小で八年お世話になり、今年三月に定年退職しました。

先生方からのご指導、保護者の方からのご支援・ご協力のおかげで、子どもたちと楽しく、ときには悩むこともありました。何事にも一生懸命取り組んでくれたように思います。

『パネルシアターを楽しもう』では、子どもたちと絵本を見ながら、絵人形を作り、操作し、表現する楽しさを味わいました。『詩の学習』では音読したり、詩の好きな場面を見つけ、絵に表したり、視写したりして、音読発表会を開きました。どちらの学習も子どもたちにとって、みんなに認められ、達成感・満足感を味わっていたように思います。今、ボランティアで六南小へ週二日ほど行き、子どもたちとのふれあいを楽しませていただいています。



▲六ツ美南部小学校での授業の様子

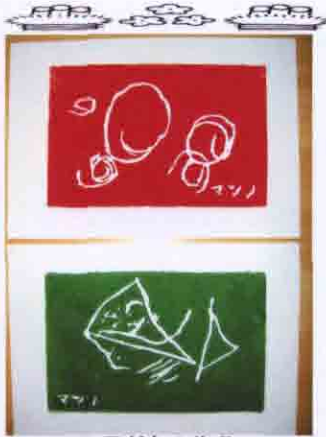
特殊・特別支援学級の頃の思い出

元根石小教諭 小林 泰子

私は、たいへん恵まれた環境で特殊・特別支援学級の担任をさせていただきました。幸甚でした。

まず、個性豊かな子どもたちに囲まれて毎日が楽しくて笑顔が絶えませんでした。また、その子どもたちのおかげで他の子どもたちや先生方と心温まる交流がもてました。体重が六十キロ近くになっても、体ごとぶつけてまきついてきてくれた子や私のスリッパを喜んではいてくれたかわいい教え子は、もう立派な中学生や高校生になりました。

くすのきホームでの合同の宿泊訓練も楽しい思い出です。新米の私は、他校の先生や子どもたちから、じかに学ぶことができました。個別の指導計画の研修会にもいち早く参加させていただき、子どもたちができることを増やそうと、私なりに自信をもって指導することができました。



▲子どもの作品

『おもち』(上) 『ヨット』(下)

そよかぜ相談室

教科・領域基礎研修会報告

六ツ美中教諭 石原 千里

市では、子どもの健やかな成長を願い、教育に関する相談に応じることができるよう、平成二十二年一月四日に教育相談センターを、竜美丘(旧健診センター)に開所します。ここに、教育研究所の相談機能とハートピア岡崎を統合することで、より多くの子どもたちの成長に役立つことと思えます。

【そよかぜ相談室について】

- ・ 新入学児の就学相談
- ・ 発達障がいのあるお子さんの教育や支援に関する相談
- ・ 学校や家庭での心配事の相談
- ・ 対象 市内公立小中学校の児童生徒、保護者、教職員
- ・ 面接相談は電話予約が必要
- ・ 相談内容は秘密厳守
- ・ 相談無料
- ・ 受付時間 月～金 九時半～十六時半 土(祝日は除く)

九時～十二時

【所在地・電話番号】

岡崎市竜美北二丁目六番地一  
電話 七一―三三二〇一

アメリカでの生活でお子さんが自閉症であることが分かった、と言われる荻野さん。NPO法人「ゆう」の副理事として、はつらつと子どもたちの未来に向けて活動しておみえだ。他のメンバーの方も、シンガーソングライターとして活動する母親であるなど、さまざまなお仕事で活躍しておられる。みなさんの表情は笑顔いっぱいであった。

わが子の事実を突き付けられた時、涙にくれた日々があり、その後、強風の前にすくと立つような凛とした母になられたのだろう。発達障がいのある子どもたちの「困難さ」をまず周りの人間が理解しない限り、教育は成り立たない。そのことを実感してほしいと願い、『軍手で折り紙』や『ペットボトルの小さな穴から巨大なものを見る』を体験させてくださった。

自らのお子さんのこだわり対策のために家を改造したり、カードで作業工程を提示することで進んで作業に取り組みように工夫されたりしたことなど、具体的に見せてくださった。「支える」ということはそんなふうには、周りの人がだんだん手を離しても自立できるように、頭を絞って工夫を重ねることだと感じた研修会であった。